

## 離反

狂ったことさえ知らぬ指

私はうずくまる  
置いてきぼりにされた場所を見回す  
総意という趨勢が導く先

私はうずくまる  
回転する円板が伴奏を受け持つ  
多様性すなわち自由であるとの認識

私はうずくまる  
鈍い反射光の散乱が満たす塵の雲  
呼吸するたびに薄膜の層が重ねられる

私はうずくまる  
新たな「見えざる手」がある  
その下で行われる無数の演算

私はうずくまる  
創造と呼ばれる行為の離反  
その離反をも材料として再生産されてゆくもの

狂ったことさえ知らぬ指

私はうずくまる

淘汰されるのを待つ

神を呼び戻すことはもはや

(2007.7.3)